

(男性介護ネットひだまりカフェ&集い資料)

只今老々介護真っ只中

1. 男性介護者の介護者像——「一生懸命だけど心配な介護者：SOSの発信が苦手」
介護の世界では、介護する人される人の共倒れが最も怖い。
2. 介護に対する考え方——「抱え込み閉鎖的介護」→「早い段階に公表し開かれた介護」
医療・介護・福祉など様々なサポートしてくれる制度やサービスを上手く利用する。
3. 言動・仕様に異変に気づき専門医で受診
先生曰く、認知症は落ち着いた介護環境が大切であり周りの接し方次第で進行が大きく左右する。薬は進行を抑える効果を期待するものであって抑えられる保証ない。
4. 発症を公表して認知症カフェ・家族会に参加
家族会の集いは、境遇する者が情報を共有し悩みや体験を語り合い心身をリフレッシュする場であり、認知症介護の第一歩は本音でしゃべれる場で話をして心を軽くすることです。
5. 介護認定の申請
専門医で認知症と診断：平成24年7月
初回認定：平成28年11月 要介護-1（4年4か月）
3回目：令和元年4月 要介護-4（2年5か月）現在：要介護-4（4年10か月）
6. 介護サービスの利用
通所：デイケア 週6日 短期入所：ショートステイ 所費に応じ利用
住宅改修（2度受ける）福祉用具の貸与（車椅子2台、特殊ベッド、玄関スロープ）
介護サービス外 便所の改修：神戸町住宅改修助成金制度を活用
介護用品：神戸町介護用品給付制度を活用
7. 日常生活——本人の居場所を大切に「世話してやる介護」→「一緒に過ごす介護」
自立歩行不能で車椅子、食事等日常生活全てに介助、会話は極力話し掛ける。
8. 最近の言動
認知症の症状を問題と捉えるのではなく、中末期の今では「いとおしさ」を感じるようになり、本人中心の生活で100%介護に徹し残り少ない人生を満喫している。
9. 老々介護の私なりの思い
認知症は治らない障害、治らない病気です。老化の一種で治そうとすると双方が焦り苦しみ進行を早めることにもなる。
公的介護サービスは有効に活用し介護の負担を上手く分散して在宅介護に徹する。
現在では、不安のピークは脱し全て割り切って受容の境地にあり、病院に頼らない薬に頼らない生活を送っている。
10. まとめ（介護者の心得）
①介護仲間をつくる ②頑張り過ぎない ③介護者あつての介護 ④腹が立ち怒って当たり前 ⑤自分なりの介護の仕方を身に着ける ⑥認知症は隠さない

令和6年2月2日

男性介護ネットひだまり 世話人 若山昌之

男性介護者の集い 男性介護ネットひだまり つどい報告書

<男性介護者と支援者の全国ネットワーク>

開催日時	令和 6年 2月 2日 (金曜日) 午後 1時 30分～午後 3時 20分	
開催場所	神戸町中央公民館 2階会議室	報告者: 若山昌之
参加者	15名 (内訳: 本人1名、男性介護者4名、介護経験者3名、一般6名 包括所長1名)	
<p>男性介護ネットひだまり「カフェ&集い」の開催</p> <p>カフェ特別演出: 二胡の調べ</p> <p>男性介護者 Aさんの資料「別紙: 只今老々介護真っ只中」に基づきお話を聞く。</p> <p>次回開催予定 3月1日 (金曜日) 午前1時30分～ 凡そ2時間 場 所: 神戸町中央公民館 学習室-2</p>		

(つどい報告書 FAX: 2024/02/05)